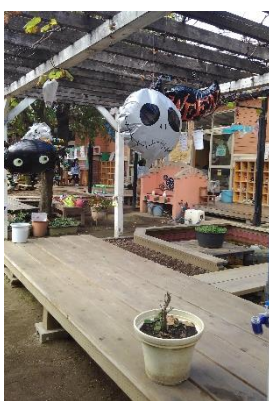


あき

第2回園内研究会の日です。「遊びの連続性を支える環境構成の在り方-遊びの連続性から見える非認知能力の育ち-」をテーマに本時の保育案に添って保育が展開される。午後からの研究会は、学年ごとの分科会と全体会の2部構成、先生たちからの提案に添って開かれることになり、指導助言の先生方にもそれぞれ担当する学年を中心に参観して頂くことになる。新たな試みの研究会にドキドキワクワクして、私は担当の4歳児保育を中心に参観する。

秋、落ち葉や実りの種やハロウィンのキャラクターたちに園内へと誘われる。秋を迎え、



園庭の夏の草花や野菜たちは収穫されたり、剪定されたりして秋から冬に向かう季節感が漂っている。ぶどう棚の葉も落ち、夏の木陰から秋の日差しを受けるテラスへと変化している。こどもが生活する場として自然事象と植物のいい環境の加減だと感じる。こどもが、秋の実りをいただくサツマイモのプランターが、すっきりした園庭に並んでいる。美しい環境。4歳児保育室前のテラスで、夏のアサガオのこぼれ種からの発芽を、大事に育てている様子が見える。さてさて冬を越してくれるのだろうか。「アサガオこぼれ種の実験」開始でしょうか。連続する生活です。さらに、

運動会で遊んだものが展示されている。クジラが空間に浮かんでいる(泳いでいる)のが面白い。廊下に寝そべってクジラと一緒に泳ぎたくなる。そんなこどもと一緒に戯れる先生がいてもいいかなあ…大きな魚は壁面を飾っている。スイミーかなあ…とこどもが表現を楽しんだ姿に想像が広がる。経験の連続性が、ここにも見られる。こどもたちが、これらを見て対話する時があるかどうか意識して見取れると幸せですね。

スイミーかなあ…とこどもが表現を楽しんだ姿に想像が広がる。経験の連続性が、ここにも見られる。こどもたちが、これらを見て対話する時があるかどうか意識して見取れると幸せですね。



これから、ハロウィンがやってくるからか、園庭のキャラクターや先生たちの手作りの装飾が目につく。4歳児クラスの様子を観に行くと、保育室の中でも魔女たちが暮らし始めて

いる。お化け屋敷もある。そこには警察隊も住んでいる。お化け屋敷は、保育室の奥の隅に造られている。内部をこどもが自分の思いをカタチづくっている。その横で、男児の警察隊が出入りしていく。二つの遊びが、共存している。扉に設置されたものや張り紙からこどものイメージが伝わる。友だちとイメージを交流しつつ、手を動かし手を使い想像し創造していく。



4歳児両クラス共にハロウィンの黒の衣装が並んでいる。赤組さんは、ままごと遊びの壁面に、こどもが自らとれる高さでそうでないものがあるなあ・・・と思うが美しく並んでいる。

さて、片づけになった。こどもはなんでも遊びにする面白い光景に出会う。箒と塵取りを手にするこども、雑巾かけをすることも、手でごみを集めるこどもと掃除を始める。雑巾がけのこどもが、ごみを集めているこどもの足元に来ると、バツと、その子が両足を広げる。と、その股の下を雑巾がけで進む。あうんの呼吸がなんとも愉快。塵取りと箒の使い方は、今のこどもには難し



いのか。箒の持ち方、履き方がぎこちない。塵取りの扱いも経験が少ないのだろう。拾ったゴミを載せていくこどももいる。多様な塵取りの役割と思えばそれもよしだが…4歳児ならば、100円ショップにある小さな箒の塵取りセットを使用してもよいと思う。掃き集める両手の動き加減・感覚加減がつかめると感じる。

朝の会が済んだクラスから園庭の遊びが展開されていく。どこのクラスも先生を核として友達と一緒に対話していた時間から、自分が好きなひと・もの・ことと対話する時間へと流れていく。こども自身が、対話する時間は先生がこどもに提案したことや、異年齢で憧れをもって見ていたことを自身で取り組もうとする姿があるように思う。自由遊びという視点を、こどもが振り返り挑戦している対話の時間という視点で見ると、また違ってこども理解が広がり楽しくなると思う。

5歳児のダンスリーダーの前で3歳児が真似て踊る。運動会で使われた道具が好きにとれるようにテラスに置かれている。遊びを誘う(遊びが連続する)環境です。綱引きも先生とと



もに始まる。鬼ごっこも始まる。園庭に全園児の遊びが展開していく。空間をうまく使用している。ブランコ遊びにこどもが行くちょっと前に、先生が安全の柵を出しておられる。遊び終わった後もさっと

片付く。園庭は共有の場という先生たちの思いの連携がとられていることに感心する。だからこそ、決して広くない園庭スペースでいろいろなこどものしたい遊びが、共存できるのだと思う。したい・おもしろい・まねたい・試したい等々、こどもが自ら心躍る時間がここにありその中で育まれるのが、非認知能力です。砂場も美しく片づけられる。そんな中で、砂と対話する 3 歳児さんもいる。何をイメージして対話しているのだろうか。そっとしておいてやりたい時間です。

お弁当が済んで、午後からの生活が始まる。見上げれば、カキが色づいている。園庭で遊びが再び始まる。先生たちも一緒に遊んでいる。園庭の置物のウサギやリスさんも一緒に暮らしているかのような表情がある。偶然か必然かわからないが、リスの前に落ち葉があるのが絵になりファンタジーを誘う。リスが落ち葉と対話しているかのようなようだ。楽しい。



このような光景からも、園長先生や皆さんが大事にしている富士見の保育の一つの温かさを感じる。園庭の中央に 1 列に並んでいるサツマイモのプランターのラインを活かして、こどものカーレースが始まる。こどもはうまく環境を取り込んで遊ぶものだと感心する。遊びが混在する中で、ここは直線コースが玄関の門まで続いている。降園前再びの片づけ、こどもと先生たちできちんと片付く。そんな中、二人の男の子が縄跳びの縄を片付けている。周りが動いている中の静かなスポット。ちょうど縄にこぶがあるのを目測でぐるぐると巻いていく。傍でじっと見つめる一方のこども。きっと、見つめる子は、自分がするとき活かしていくのでしょ。このような時間も大事に見守りたいものです。

(文責 鍋島恵美)